

平成 28 年 8 月 9 日

沖縄県知事

翁長雄志殿

度重なる中国の尖閣侵入に対する抗議要請

知事におかれましては、県民の福祉向上、経済振興のため日々、ご尽力下さり誠にありがとうございます。

さて本年 8 月 5 日以降、尖閣諸島周辺接続水域及びその付近における中国国家海警局の公船と大量の漁船の同時航行が確認され、7 日には 13 隻の公船の接続水域航行、2 隻の領海侵犯、そして周辺海域に 300 隻の漁船が確認され、昨日はさらに接続水域に過去最多の公船 15 隻が進入しております。

この 4 日連続の緊張状態において翁長知事が見解を発しておられないことに対し、やむにやまれぬ思いで要請させていただきます。

翁長知事は本年 6 月 9 日、中国の軍艦が初めて尖閣諸島周辺接続水域に侵入した直後、我が国政府に対し県民保護の要請をされませんでした。その後 29 日に石垣市議会が知事に対し漁業者の安全操業に向けた取り組みを要請しましたが、要請書を受け取られたのは、部課長級職員でした。背中をおされた翁長知事が政府に安全確保の要請をされたのが、7 月 21 日で、これが初めてのことです。県民の命を預かる首長としての判断の遅さ、主体性のなさに失望し、危機感を募らせている県民は多いはずです。

翁長知事は、昨年 の 国連人権理事会において、辺野古移設を推し進める我が国政府による沖縄県民への人権侵害を訴えられましたが、同時に石垣市議会が要請していた、尖閣諸島における中国の進出を批判するよう求める意見書に基づく中国政府への抗議は一言もありませんでした。

北朝鮮が初めて我が国秋田沖の EEZ（排他的経済水域）にノドンとみられる中距離弾道ミサイルを発射し 8 月 3 日 6 時 5 分頃着水したとみられますが、同日午後 3 時には秋田県と県警の担当者 15 名が集まって緊急の連絡会議を開き、佐竹敬久知事は「これまでと全く局面が違い、秋田が射程圏内に入っている。戦争行為で許せない。国と連携し、県民の安全を守るために努力したい」と述べておられます。この態度の違いは一体何なのか、私どもも沖縄県民として、この対応の違いに慄然とするものを感じます。

また、基地の移設問題に関しては外交権を持たない一知事が訪米してまで米国政府に抗議をしておられますが、中国政府に対しても直接抗議しないということはダブルスタンダードであり、中国国内において、沖縄はもともと中国領であったという世論も醸成されている中、まさしくこれは沖縄県を中国の植民地化へとミスリードしうる、作為と無作為である、と強く抗議するものであります。

— 記 —

翁長知事に対し、以下の要請をさせていただきます。

1. 八重山漁業者の操業の安全と生活を守り、沖縄県民の生命・安全・財産を守るために、我が国政府に対し、中国政府への抗議を強く要請すること。
2. 国防・外交という我が国政府の権限を超越して訪米までして基地問題について訴えをしておられるが、中国による領海侵犯事案については政府任せであることが決してダブルスタンダードではないということを県民に説明すること。

以上

私どもは、知事の行政内容について批判をするものではございません。防衛に関して逸脱している部分、そして県民の安全確保について配慮がないと思われる部分について、意見させていただくものです。

8月15日までに、この要請文への、ご返答をお願い申し上げます。

提出者

幸福実現党 沖縄県本部

代表 山内 晃

副代表 金城竜郎